

秋の叙勲

おめでとうございます

勲5等瑞宝章



後藤 孚さん (久沢東・80歳)

後藤さんは、昭和24年6月以来、保護司として30有余年の長きにわたって要保護世帯の援助と刑余者の自立更生など親身の奉仕活動を続けてきました。この間、保護司連盟会長、県知事、関東地方更生保護委員会会長などから数々の感謝状が贈られたほか、昭和46年には「善行功労」で市長表彰を受けられるなど、住民福祉の向上につくされた功績は高く評価されています。

勲7等宝冠章



大塚ゆき江さん (森島・60歳)

大塚さんは、昭和30年、富士老人ホームに診療所が開設されたとき、看護婦として奉職以来、24有余年にわたって、おとしよりに献身的な看護をつづけ、みんなから慈母のように親しまれてきました。この間、当時の町立隔離病舎に住み込み看護婦として汚物消毒から赤痢集団発生で徹夜看護をしたこともあり、昔の労苦をしみじみ語ってくれました。

政府は「文化の日」の11月3日、54年秋の生存者叙勲を発表しました。本市では次の2の方が福祉功労で受章しました。

2年間の県指定地区として活動

岩松民協が全国表彰

岩松地区民生児童委員協議会は、10月17日茨城県民文化センターで行われた、全国民生児童委員協議会で全国表彰を受けました。



【熱心に話し合う岩松民協のみなさん】

これは、昭和52、53年度に静岡県民協から研究地区として指定を受け、その活動が評価されたものです。

岩松民協は、岩松地区の全世帯(4,031世帯)を対象に、「福祉について」のアンケート調査や中学生の意識調査を実施。

また、町内会、婦人会、社会教育推進

会など、地域団体との連携をもち、福祉についての理解を積極的に深めてきた。

アンケート調査の結果では、地域の人たちが関心のあるものとして、①老人福祉(24%) ②児童福祉(23.8%) ③身体障害者福祉(8.3%)の順位。

代表者の井上三郎さんは、「福祉についての理解度はまだまだ少ない福祉とはどんなものかを知りたいという意見が多かったので、これからも努力をしなければいけません」と話していました。

身障者オリンピックで活躍

野球の増田さん、走幅とびの斉田さん

宮崎県で開かれた第15回全国身体障害者スポーツ大会に出場した増田輝夫さん(江尾1、29歳)は盲人野球で優勝、斉田立美さん(藤間、34歳)は、走幅とびで2位

に入賞しました。

増田さんは、静岡県盲人野球チームの一員として出場し決勝戦で神奈川県チームを13対0と圧勝。斉田さんの記録は4位80秒でした。

